

EU キャンパス Doshisha Week 2021 開催さる!

Doshisha and Tübingen Students Exhibited Their Contributions to Manga Culture and Sustainable Development/SDGs!

学生支援センター所長 下楠 昌哉
EUキャンパス支援室長 和田 喜彦
学生支援機構事務部長 井上 真琴
国際連携推進機構事務部長 田中 竜哉

はじめに

11月25日、26日に Doshisha Week 2021をオンライン形式により開催した。

Doshisha Week は、EU キャンパス開設に伴い、チュービンゲン大学（以下、UT）内ではもちろん、ドイツ国内、EU 圏内における本学の認知度を高めていくことを目的に2019年度から開催している行事である。当初は本学と UT との「研究交流」に重きをおき、2019年度はチュービンゲン大学において対面形式で、2020年度はオンライン形式により、教員同士の研究交流事業を開催した。今年度は、EU キャンパスのブランディング戦略の一環として、更なるプレゼンス向上を期待し、初めて「学生・文化交流」を主軸とした取組みにチャレンジした。

学生支援センター所長・下楠昌哉教授による開会宣言で、学生交流イベントでありながらも格調高い雰囲気の中での開幕となった。初日は「漫画」、二日目は「Sustainable Development/SDGs」をテーマに、学生同士が意見交換やワークショップを通じて交流を深めた。

一日目

11月25日の「漫画」は2部構成として、第1部は社会学部の竹内長武教授による「現代日本漫画の表現を考える」と題した講演会を行い、第2部は同志社大学文化系公認団体の漫画研究会による「漫画を描いてみよう」と題したワークショップを実施した。

第1部の講演会には約75名の参加があった。司会は、漫画研究会代表の黄潤青さんと、本学に留学経験がある Jacqueline Kluge さん（イギリスから参加）が務め、竹内教授が事前に収録した講演を配信した。講演は日本語で行われたが、英語の字幕が付いていたため、UT の視聴者

にも理解が容易になり、その後の活発な質疑応答にも繋がった。

竹内教授は講演のなかで、日本漫画の黎明期から現代漫画まで幅広くその表現方法について触れられ、手塚治虫氏の漫画から ONE PIECE など現在も連載されている漫画まで多岐にわたって解説された。漫画は欧米でも人気のメディア・文化であることから、専門的な解説でありながらも興味の尽きない内容で、約60分の講演が短く感じられた。講演終了直後から多くの学生が質問を寄せ、そのすべてに答えることはできなかったが、「現代漫画で実験的な表現を工夫している漫画はありますか」といった分析や評価に関わる質問が寄せられた。なお、UT 学生と竹内教授との質疑応答に関して、英日通訳、日独通訳を行うなど、漫画研究会の司会者同士で臨機応変に対応した差配は見事であった。

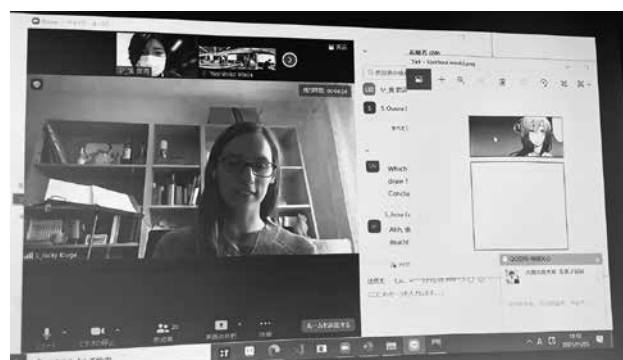


竹内長武教授による講演会

第2部「漫画を描いてみよう」ワークショップには、UT からは37名の参加があり、UT 側で事前にチーム編成を行い、3チームに分けて実施した。オンラインでの交流であるため、最初にチームごとの自己紹介を行うアイス



漫画研究会によるワークショップ「漫画を描いてみよう」(1)



漫画研究会によるワークショップ「漫画を描いてみよう」(2)

ブレイクを実施した。その後、ストーリーを展開するうえで重要な起承転結、漫画の描き方の具体例について、全員で理解を深めたうえで、再度チームに分かれて漫画を描いてもらった。30分の時間をかけて2コマ漫画を描くことになったが、それぞれに個性的な絵が紹介され、学生同士の創造のヒントや発想の工夫の気付きにもなっていた。対面ではないため、現場における熱量を感じることはできなかったが、画面を通じて笑顔も溢れており、楽しい様子を垣間見ることができた。

当初30分の作成と振り返りを3分と予定していたが、予定時間を過ぎても議論は冷めやらず、下楠学生支援センター所長の閉会宣言の後、20分延長の意見交換の機会を設けることで、学生同士での交流をさらに深めることができた。

二日目

二日目となる11月26日は、「Sustainable Development/SDGs」をテーマに本学から学生支援センター登録団体のASUVID今出川による発表を、UTからは学生団体のThe “Colourful Meadow Initiative” Tübingen による発表をそれぞれ行った。参加者は約35名であった。

EU キャンパス支援室長・和田喜彦教授による ASUVID 今出川の紹介の後、代表の岸本涼子さん、松下幸弘さん、樫本季里さんにより、ASUVID 今出川の活動の内容として「子どもの教育支援」「身近な国際協力」「地域活性化」

について報告がなされた(次頁画像参照)。

その後の発表では、国連が採択した「SDGs」の12番目の目標「つくる責任、つかう責任(持続可能な消費と生産のパターンを確保する)」に深くかかわる活動として、「琵琶湖プロジェクト」が取りあげられた。同プロジェクトでは琵琶湖湖畔4.5km に亘ってクリーンアップ活動を行い、1日の活動で45リットルの大きさのごみ袋164個を必要とするほどのごみが流れ着いていたことが紹介されるに至った。琵琶湖一周の活動を目指しながらも、自分たちの日常の活動だけで成し遂げられるものではない限界を十分に認識し、地元の方々をうまく巻き込んで活動を実施できる体制にしていきたい想いが伝わる内容であった。

UT からの質問には「非常に素晴らしい取り組みであるが、湖畔の長い距離を対象にして、どのように活動を続けていこうと計画しているのか、またその情熱はどこから来るのか」といった質問があった。ASUVID 今出川からは、先輩の想いを受け継いで継続的に実施するモチベーションを皆が大切にしていると受け応えたことが印象的であった。

続いて、UT の Potthast 教授より The “Colourful Meadow Initiative” Tübingen の紹介があった。Potthast 教授は生物多様性、環境倫理や Sustainable Development の分野で著名な研究者であり、2020年2月に本学で開催された UT との国際シンポジウムにて研究発表された方である。

The “Colourful Meadow Initiative” Tübingen からは、



ASUVID 今出川による発表「地域活性化」



ASUVID 今出川による発表「琵琶湖プロジェクト」

都市における生物多様性の保全活動についての発表が行われた。「SDGs」の15番の目標である「陸の豊かさも守ろう」に関する内容であった。「手入れされていない草原」「見渡す限りの美しいタンポポ畑」、どちらが多様性に富んでいますか？という問いかけから始まり、ヨーロッパにおける草原の減少を狙上へのせ、その解決策を見つけるための活動について報告された。昆虫の種と個体数の増減などデータ分析に基づいた内容が紹介され、チュービンゲン周辺の56か所の草地約15ヘクタールをモニタリングしながら監視と保全、またネットワークづくりと啓発活動を実施しており、根本的な問題解決に向けて動いている活動がみえる発表であった。

両大学の取組みは、環境保全に積極的にかかわっている現況、かかわろうとする意思が詳細にわかる内容であり、どうしたらより効果的に情報発信を行え、多くの人々に理解してもらえるのかを考える良い機会になった。

質疑応答の場面では、SDGsに関心のある学生同士の交流を活かし、両大学の活動に継続的発展をもたらすための施策として、本学とUTの学生が、それぞれ京都とUTで行われる他の学生イニシアティブに参加するインターシップを設けてはどうか？といった意見がUT側から提案された。また、後半モデレーターを務めてくださったPotthast教授から、2つの学生報告事例は特筆できる実践例であり、実り多い議論がなされたとのコメントがあった。さらに、Potthast教授から、国際間の移動は大量の

エネルギー消費と温室効果ガスの排出が伴うため、学生のインターンシップ交流を実施するのであれば、sustainable mobility（持続可能な移動）の観点から、1か月間の滞在ではエネルギーの無駄であり、3か月以上であることが望ましいという意見を頂戴した。

おわりに

最後に和田 EU キャンパス支援室長から2日間に亘って行われた Doshisha Week 2021の開催にあたり、UT側の日本学科長の Horres 教授、日本学科の Glantz-Schückle 氏、Potthast 教授、国際研究交流担当者の Moser 氏、本学の竹内教授、学生支援課、国際課、そしてとりわけ両大学の学生登壇者の皆さんへの謝辞が述べられて幕を閉じた。

初の学生・文化交流は、非常にチャレンジングであった。学生が自前で作り上げた Doshisha Week 2021は、本学のブランディングを大いに高めてくれたといっても過言ではないであろう。2022年度は新型コロナウイルスの感染状況が落ち着き、Doshisha Week 2022をチュービンゲンで開催できることを期待している。

(しもくす・まさや)

(わだ・よしひこ)

(いのうえ・まこと)

(たなか・たつや)

DOSHISHA WEEK 2021



Nov.25 Thu.
9:00-12:10
(German Time)

Manga

1. Lecture This event will be held via zoom.

Speaker Professor Osamu Takeuchi,
Faculty of Social Studies, Doshisha University
Title Considering the Expression of Contemporary Japanese Manga

2. Workshop on how to draw manga

Speaker Manga Research Group of DU Students
Content A workshop on how to draw manga
by Manga Research Group of DU Students



漫画に関する講演会・ワークショップのポスター（ドイツ国内広報版）

Please join us for an opportunity of sharing excellent student initiatives toward SDGs!

DOSHISHA WEEK 2021

Nov. 26 FRI.
9:00-11:00
(German Time)

Zoom

Meeting ID: 811 4936 1444
Passcode: 872003

Check! Doshisha and Tübingen students are working on Sustainable Development/SDGs!

Program

9:00 AM — Opening, Introduction of a student group, ASUVID by Professor Yoshihiko Wada, Director, Doshisha EU Campus Office

9:05 AM — Introduction of areas of regular activities
- Environmental Conservation, e.g. clean-up activities, removal of invasive species.
- Disaster Prevention, Mitigation and Reconstruction of Affected Areas.
- Educational Support for Children,
- Regional Vitalization, e.g. support of local seasonal festivals.

9:15 AM — Presentation: Presentation: "Clean-up activities of Lake Biwa shore: Trying to Solve Debris Problems" by Ms. Ryoko Kishimoto, et al.

9:30 AM — Q&A

9:40 AM — Short break

9:50 AM — Introduction of a student group from University of Tübingen, The "Colourful Meadow Initiative" Tübingen by Professor Thomas Potthast, Co-Director, International Center for Ethics in the Sciences and Humanities (IZEW), University of Tübingen


9:55 AM — Introduction of areas of regular activities
- Optimize the management of the grassland areas on campus and beyond to improve their quality with respect to conservational and ecological issues,
- Work in model areas in and around Tübingen city including scientific monitoring of effects,
- Communicate with decision makers to improve inner urban green areas with respect to greenspaces,
- Environmental education on socio-ecological aspects of "Colourful Meadows" and how to create them.

10:05 AM — Presentation: "The "Colourful Meadow Initiative" Tübingen - Local Work for Biodiversity" by Ms. Farah Badreldin, et al.

10:20 AM — Q&A

10:30 AM — Discussion

10:50 AM — Closing: Professor Yoshihiko Wada



Sustainable Development/SDGsに関するワークショップのポスター（ドイツ国内広報版）